

普及活動情勢報告（平成18年5月分）

安芸農業振興センター 農業改良普及課

情勢報告

土づくりに、地元産家畜ふん堆肥を利用しませんか。



見て 触って 臭いを嗅ぐ
やはり実物を見てみなければ。

センターでは地元産家畜ふん堆肥の利用を推進している。5月9～12日の4日間、9つの園芸集出荷場で家畜ふん堆肥のサンプル展示を行った。サンプルを見た園芸農家からは「ニオイは全然ないね」、「試しに使ってみようか」、「堆肥の製造風景も見てみたい」などの声も聞かれた。好評のため、多くの集出荷場で展示期間を延長した。今後の活動として、果樹を対象としたサンプル展示や、施設野菜・果樹の実証ほの設置、園芸農家と畜産農家が互いを身近に感じられるような交流の場作りなどを行っていく、予定である。

栽培と経営は一体です。まずは基礎をしっかりと！



まずは基礎から
しっかり学びましょう

JA土佐あき安芸市青色申告会の新年度の勉強会が、4月18日からスタートした。昨年よりさらに会員数を増やし、3支部合計で109名という大組織に育っている。今年度から本格的に記帳を開始する人は19名。4～7月まで毎月1回、この19名を中心とした基礎講習を開催する。

当センターでは、近年の農業経営の悪化に対し、「ナス18ト/10a採り技術」の普及に取り組んでいる。青色申告会を指導する上でも、ただパソコンに数字を入力するのではなく、その数字とハウス内の作物がどう結びついているのかを意識できるような教え方を心がけたい。

「ポジティブリスト制度」の施行に伴い情報提供



安芸市赤野地区での説明会

ポジティブリスト制度と農薬飛散防止について、農業者に周知をはかるため、生産部会29組織を対象に講習会等で説明を行っている。さらに徹底をはかるためにJA土佐あき広報および出荷場だより、安芸市、芸西村の市町村広報等で啓発資料を、合計約22,000枚配布した。

これからの季節、防除の機会も多くなる。今後は、消費者に安心・安全な農産物を提供するため、農業者がお互いに気配りをしながら作業を行うように、はたらきかけていく。

農業法人ハッピーファームとの定例打合会を開催する。



異業種から農業参入した農業法人ハッピーファームは、今年度から、48aでトマト栽培をおこなっており、いよいよ、6月から初出荷をむかえる。

4月から栽培や作業（労働力）等について、現状の報告と今後の計画について関係機関と共に定期的に打ち合わせをおこなってきた。今月は、収穫最盛期に向けて病害虫対策、労働力の調整、作業従事者の暑さ対策等、経営者が不安に思っている事について検討した。作業が順調に進むように、病害虫対策や、従業員に対しての研修会等の支援をしていく。

「雨よけ」への転換で販売額アップ



熱心に検討している部会員

JA 土佐あき室戸支所シシトウ部会では5月18日に現地検討会を行い、振興センターから雨よけ栽培における整枝、灌水、追肥等の管理について指導した。

数年前から露地野菜農家に対して、所得の向上を図るために雨よけシシトウを推進した結果、今年までに4戸が中古ハウスやレンタルハウスを導入し、雨よけ栽培に取り組んでいる。

春先から日照不足、低温が続いているが、農家は露地に比べると雨よけ栽培では生育や着果が良好という評価であった。今年から雨よけ専用コードでの出荷となるが、これまで以上に選別を徹底し、販売額の拡大に努めていく。